



バミューダ・トライアングルってなに

常識では解けないなぞが次々におきる

アメリカの南東岸の大西洋に、バミューダ諸島を中心とした三角形（トライアングル）をつくる領域があります。バミューダ諸島から南のフロリダ半島、西のバハマ諸島やプエルトリコなどで形づくる三角地帯です。

ここが、バミューダ・トライアングルとよばれて、おそれられるようになったのは、常識では解けないなぞが、次々におきるからなのです。

1945年（昭和20年）ごろから、100をこえる船や航空機が、まったく原因がわからないまま行方不明となり、1000人以上の人たちが、手がかりがつかめないまま、消えてしまっているのです。もちろん、さまざまなそうさくは行われましたが、行方を絶った船や航空機は、かけらさえも見つかっていないのです。

原因が不明の事故は、世界でも類をみない

行方がわからなくなる航空機も、消える直前まで正常の交信をしています。しかし、計器が正しくはたたらかなく、海は静かだったのに、みょうな感じに見える、などの連絡をよこしたあと、消えているのです。そのため、いろいろな説が生まれ、つ波説、航空機をめがけてくる火球説、UFOのしわざ説などさまざまです。

もちろん、この地域を航行している船や航空機はたくさんありますが、原因が不明で、これほど多くの事故が発生しているのは、世界でも類がなく、そのためバミューダ・トライアングルの名が、世界に広まったのです。（監修・保岡 孝之）

